

円居

令和7年10月15日(水)
備前市立備前中学校
校長 藤森 卓麻
0869-64-3365

主体性について考えた

ー 赤ちゃん登校日で考えた ー

「主体性を育てる」という類いの目標を教育現場でよく見かけます。「自主性」ではなく「主体性」です。決められている係の仕事を自分からやるのは「自主性」。やるべきことを自分で決定するのが「主体性」といったところでしょうか。一方で、「主体性は生まれたときから全員が持っている」という話を聞きます。赤ちゃんは好奇心の塊です。興味を持つと自ら突撃していきます。開けたり、引けたり、登ったり、口に入れたり…。その生まれながらに持っていた主体性を、大きくするにつれて失っていったということでしょうか。学校は主体性を育てる場所ではなく、取り戻す場所だ、なんてことを言う人もいます。育てるにしても取り戻すにしても、自分で考えて自分で決めるという場、機会を、学校は提供する必要があります。備前中ではそれが授業の中だったり、



学校行事の中だったり、生徒会活動の中だと考えます。校則改

定も、その自分で考えて決めるための活動の一貫として行っています。(*)

赤ちゃんを見ながら、そんなことを思い出しましたが、何はともあれ3年生の顔が、みんな優しく穏やかになっていく赤ちゃん登校日でした。活動にご協力いただいたたくさんの皆様、本当にありがとうございました。

ー 今回参加してくださったお母さんの感想からー

来る前は、思春期の子たちがどんなふうに関わってくれるのかな?と思っただけ、みんなとても素直で赤ちゃんたちにスツとふれ合ってくれて、母も気持ちよく見守ることができました。我が子でも赤ちゃんは思うようにいかずに、イライラしたりストレスがたまったりとかわいいだけでは終わらないことがいっぱいです。でもほんとにニコツとしてくれるだけで、そんな感情が吹っ飛ぶくらいかわいくて愛しいです。小さい頃から中学生になっても、おじさんおばさんになっても、親は子どもがかわいくてしかたないんです。子どものために口うるさいことも言うけど、ケンカもするけど、底には愛がいっぱいだから、そこは忘れないでね。家に帰ったら、一言二言でも話しかけてくださいね。心温まる体験をありがとうございました。

(*)最近の備前中あるある

先日、地域の方との立ち話の中で…。「備前中は校則が緩くなったって?すごいことになっていてアメリカみたいだって。みんなが言ってる。」↓備前中から校則はなくなっていないです。染髪、ピアス、化粧、極端に短いスカート等は認めていません。

ー 合唱祭で考えた ー

昨年からスタートした全校合唱。今年は練習からなんだか今ひとつ…。生徒会中央役員の子たちが中心になって昼休みの練習を引っ張ろうとするのですが、どうも声が出ない。いよいよ本番が迫り、これはち



よつと無理なんじゃないかと思ひ始めた頃、中央役員の子たちが校長室を訪ねてきました。このままだと全校合唱として完成しないので、どこかの一時間を全校練習に充ててほしいというものでした。

私は、「できそうにないならやめるという選択もある」ということを提案しました。しかし子どもたちは、3年生にとって最後となる合唱祭で、絶対に全校合唱を成功させたいというところ、そのためにもまずは3年生が一つになること、そして全校練習の具体的な計画を話してくれました。翌朝、3年生だけで体育館に集

まり、皆で全校合唱の持つ意味を確認しました。そして4時間目、まずは3年生が下級生に向かって全校合唱に対する思いを伝え、その覚悟を示すために3年生だけで歌ってみせました。その後は全校でパート練習。翌日からの練習は順調に進み、本番へと繋げることができました。生徒主体の生徒会活動と謳っていきながら、全校合唱のそもそもの目的を生徒自身に考えさせ発信させる場を設けていなかったことに対して、私たち教職員は大いに反省しました。子どもたちの底力にうれしさを感じるとともに、「なぜ」「なんのために」…、うまくいきそうなきこそ大切にしないといけないと再認識しました。

来年度に向けて

ー 学校行事(体育会・合唱祭を平日にー

来年度の実施を考えているところです。理由としては、次のようなことがあります。

■クラブチームの大会と重なり、どちらか一方を選ばないといけない事例が増加。※他市の総体に出場するケースも。

■高校のオープンスクールと重なり、同じく選択を迫られる事例が出てきた。

詳しい日程が決まり次第、あらためて皆様にご連絡いたします。



生徒会スローガンの新しい看板が登場! 生徒からデザインを募集し、全校生徒の投票により決定しました。